
2022 年度 事業報告書

特定非営利活動法人
アントレプレナーシッ
プ開発センター

〒604-0866
京都市中京区西方寺町 160-2
船越メディカルビル 3F
TEL:075-468-8907 FAX:075-468-8908

アントレプレナーシップ開発センターが目指すもの:

アントレプレナーシップ溢れる人材育成と社会の実現

目次

はじめに	1
2022年度 事業概要 SUMMARY	2
2022年度 活動報告 ACTIVITY REPORT	3

はじめに

2022 年度は、政府の新型コロナウイルス感染症に対する対策が緩和されはじめ、当センターでも、オンラインで縮小しておりました活動を対面で再開することができ、お陰様で計画しておりました事業を無事終了することができました。これもひとえに皆様のご支援、ご協力の賜物でございます。

ただ、残念ながら、ロシアのウクライナ侵攻によって世界情勢が大きく変化し、そのことは、子供達の社会活動への意識にも反映されました。寺町商店街で活動している「ジュニアリーダーズクラブ for Social Action」に参加する子供達も、平和や何故戦争が起きるのかについて考える時間が持たれました。そして、自分達ができることを話し合い、身近なところで互いの立場を超えて理解・協力しあう学びが得られるカードゲーム作りを始めることになり、何度か試作を繰り返して、今年の夏ごろをめどに完成する予定です。広く皆さまに使ってもらえるものになればと思っています。

また、3回目になります小中学生対象の起業アイデアコンテスト「Kyoto アントレプレナーチャレンジ」では、地域や連携団体のご協力を得て、子供達が実現したかった事業を形にすることができました。多くの課題を乗り越えながら、地域を盛り上げるために行動したことやそれに協力してくれる人々がいたことは、彼らにとって大きな自信となり、また、一生の思い出になることと思います。夏に行いました「里山の恵みを届ける手仕事体験」も、箱メガネを作って川で水中観察したり、地域の魅力発信の動画を作成したりして、田舎暮らしに興味ある人と地元の子供達の交流を楽しく行うことができました。

2004 年から続けております高校生の国際競技「Global Enterprise Challenge (GEC)」の今年3月の国内予選では、75 校 81 チーム(約 500 名)の高校生のエントリーがありました。また、世界大会は、アジア諸国の参加が増えるなか、4 月 22 日に 1 次選考を行い、5 月 27 日の本選には21カ国から47 チームが参加予定です。第 22 回目を迎えた起業教育の実践見本市「ユースエンタプライズトレードフェア」は、3年ぶりに京都大学でのリアル開催となり、生徒達は、一般の来場者の方にも評価いただいたり、出展者自身も他校の取り組みを見て良い実践に投票したりと、互いに学び合うことができました。

不安定な世界情勢の中、若者達が未知の社会を切り開いていくために、アントレプレナーシップの必要性が広く注目されるようになって来ています。ようやく時代が追い付いて来た感もありますが、皆さまには、アントレプレナーシップ溢れる若者の応援団として、引き続きご支援・ご指導賜われますようお願いいたします。

令和 5 年 5 月末日

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター
理事長 原田紀久子

2022 年度 事業概要

Summary

事業内容	対象等
1.能力開発のための研修・講義・講座の提供	
【ジュニアリーダーズクラブ for Social Action】 身近な社会問題について考え、自分達ができることを提案して主体的に実践するなかでソーシャルリーダーとしての資質を育成する講座。今年もいろんなアイデアを形にし、ボランティアスピリットアワードでもブロック賞も受賞しました。 助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」	対象：小学 5 年～中学生 日時：毎月第 1,3 土曜日 午前 9:30-11:30 場所：寺町商店街(京都パレット町家ヒノコ2F)
【Kyotoアントレプレナーチャレンジ】 小・中学生対象の事業アイデアコンテスト。採択事業には、その実現に向けて助言や経費的な支援をし、最後に優秀な取り組みを表彰するもの。今年も、6 つの事業提案を採択し、7 月末～2 月末の間に、5 つのチームが提案事業を実現しました。 補助：京都府「起業するなら京都・プロジェクト」起業体験推進補助事業	対象：京都府内の小・中学生 採択事業への参加者約 1000 人
【里山の手仕事体験ワークショップ】 亀岡市の別院地域の子供達と一緒に、里山の資源を使ったモノづくりを体験しながら交流することで、別院地域の良さを知り、地元の小学校への通学者を増やしたり、移住につなげたりするための取り組み。 助成：一般財団法人 YS 市庭コミュニティー財団	対象：地元の小学生と移住を検討している親子 日時：6/26(日), 7/3(日) 参加者：約 60 名
2.普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営	
【Global Enterprise Challenge (GEC)】 高校生対象の 12 時間のオンラインでのビジネスアイデアの国際競技。 協賛：有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所、株式会社ジンジブ、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社、日東薬品工業ホールディングス株式会社、日本ニューロン株式会社、株式会社フューチャースピリッツ、株式会社堀場製作所 協力：京都技術士会	対象：高校生 2022 年世界大会 2022/5/28 2023 年国内予選 2023/3/26
【ユースエンタプライズ トレードフェア】 地域と連携した起業教育の実践活動を行う小学生～大学生が一堂に会して出展・交流する成果発表会。優秀な取り組みを表彰。今年も、3 年ぶりの対面での開催。 協賛：株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、京都信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社 SCREEN ホールディングス、株式会社井筒ハツ橋本舗、株式会社つなぐ制作所、株式会社土井志ば漬本舗、有限会社 EK、オムロンヘルスケア株式会社、京都シネマ、よーじやグループ	対象：小学生～大学生 日時：11/27(日) 場所：京都大学百周年時計台記念館 参加者：約 300 名
3.実践を後押しするための教材・教育プログラム開発や導入支援	
【Youth Enterprise】 小学生～大学生の起業家教育の活動を発信・交流できるオンラインの教育プログラムの提供。	対象：小学生～大学生 参加者：31プロジェクト
【アントレプレナーシップ教育の指導者研修】 アントレプレナーシップを推進したい教育指導者の育成講座。	日時：適宜、オンライン & 対面
4.事業理解を進めるための調査・研究・情報発信	
HP や月一回のメールマガジン、SNS 等によるセンター活動の報告・案内を行った。	随時、メールマガジンは毎月 25 日発行
5.その他 この法人の目的を達成するために必要な事業	
委員や講演等。行政や地元の経済団体・大学等の人達に当センターの活動を知ってもらう機会となっている。今年も、商標登録を行い、知的財産の保護に努めた。	随時

1. 能力開発のための研修・講義・講座の提供

➤ ジュニアリーダーズクラブ for Social Action @寺町商店街

対象者:小学生5年~中学生

活動日:第1・第3土曜日 9:30-11:30

活動場所:京都ペレット町家ヒノコ2階

主催:特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

助成:独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」

後援:京都市教育委員会

本事業では、子供達が身近な社会問題について考え、その解決に貢献できる事業を提案し、実際に取り組むことで、リーダーとしての資質を伸ばすことを目的としています。

2022年度は、ウクライナとロシアの戦争が始まり、子供達からは争いが起るのを防ぐには互いの違いを認め合うことが必要だという意見が出ました。結果、互いに協力することで問題を解決していくカードゲームを作ることになりました。1つは、「Break Borders」というゲームで、社会状況が全く違う6つの国が、互いに協力することで国の壁がなくなるもの。もう一つは、「Change School」というゲームで、身近な学校での問題を生徒や先生などの6つの異なる立場の人が力を合わせて解決するもの。

また、楽しく清掃活動をすることで、環境意識を高めるためのイベント「ハロウィンチャレンジ〜ゴミ拾い名人は誰だ!？」を地域のお店などの協力を得て10月29日開催しました。子供達はハロウィンにちなんで仮装し、参加者には京都市役所から半径1キロの範囲のゴミを楽しみながら拾ってもらいました。自分達と同じ小中学生が親子で大勢参加して下さり、良い活動になりました。

そして、春には、地域の子供達に思いっきり遊んでもらおうと「春まつり」を企画し、カードやボードゲーム、寺町の商店街をテーマにしたクイズラリーやビンゴをして、参加者をもてなしました。



➤ 小・中学生の起業アイデアコンテスト「Kyoto アントレプレナーチャレンジ」

令和 4 年度京都府「起業するなら京都・プロジェクト」起業体験推進補助事業

対象者：京都府内の小・中学生

活動日：5 月初めから募集開始し、7/22 日に審査結果を発表、その後 2 月迄にアイデアの実現
3/6(日)に京都経済センターの KOIN(オープンイノベーションカフェ)にて事業報告会

主催：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

後援：京都府、京都府教育委員会、京都市教育委員会

本事業は、未来を創る当事者である小・中学生に、自分達の身近な問題に目を向け、その解決に貢献できるアイデアや京都の豊かな資源を活用したアイデアを募り、それを実現する過程でアントレプレナーシップを育成することを目的としたものです。

2022 年度は、4 月半ばから公募を始め、37(272 名)の応募があり、1 次(書類)選考にて 11 の事業提案に絞られた中から、2 次(面接)選考を経て 6 つの提案アイデアを採択しました。採択者に対しては、7 月末～2 月末まで、月 2 回オンライン会議にて専門スタッフから助言指導を行い、互いに活動の進捗状況を報告して学び合いながら、企画内容を形にして行きました。最終的に、5 つのチームが、提案した事業アイデアを実現し、又は、それ以上の成果を上げて終わることが出来ました。

3 月 6 日には、京都経済センターの KOIN にて事業報告を行い、亀岡の特産物を使ったコロッケを作って 2 度の販売会を実現した亀岡市立安詳小学校 5 年の『霧にささげる亀岡コロッケ』に知事賞が、楽しくゴミ拾いを行うイベントを企画したジュニアリーダーズクラブの『ハロウィンチャレンジ』にアントレプレナー大賞が授与されました。また、地元の食材を使った「給食列車」を走らせて京都府立福知山高等学校附属中学校 3 年のチームが特別賞を受賞しました。

<採択事業>

『霧にささげる亀岡コロッケ』(亀岡市立安詳小学校 5 年生 4 人) <知事賞受賞>



亀岡市を盛り上げたいと、亀岡牛・篠かぶら・かめまる芋といった特産物と霧深い亀岡をイメージする綿あめを使った『霧にささげる亀岡コロッケ』を提案。亀岡市産業観光部農林振興課の方々のご支援のもと、株式会社京都協働管理、JA 京都等の地元企業の協力を得て、試作品を開発し、2 回の販売会で完売！子供たちが学校の友達などに積極的に広報し、毎回 1 時間ほどで準備したコロッケが売り切れました。協力者からも高い評価を得る取組となりました。また売上収益の一部を市役所に寄付し、開発した『霧にささげる亀岡コロッケ』のレシピは亀岡市の広報誌に掲載されました。



『ハロウィンチャレンジ』(ジュニアリーダーズクラブ小学 5 年～中学生 11 人)

<アントレプレナー大賞受賞>

同年代の子供達に、身近な地域の清掃活動に楽しく取り組んでもらうことで、ゴミ問題に関心をもってもらうと、ハロウィンのイベントに合わせて企画した事業。実施に向けて、自分達が活動する場所がある寺町通のお店や清掃関係の会社に訪問して協賛を依頼したり、京都市役所に集合場所の提供やゴミ拾いに必要な備品を貸し出してもらったりして、必要なものを準備しました。広報は、各自が作ったチラシを友人達に学校で配布し、自分達で集客。10 月 29 日のイベント当日はハロウィンのコスチュームを着て、参加者全員にお菓子やゴミをたくさん拾った人に賞品を授与するなど、参加者を楽しませる工夫をしました。天気にも恵まれ、小さい子供を連れた家族連れを中心に、約 80 名が参加するイベントとなりました。



『給食列車』(京都府立福知山高等学校附属中学校 3年4人) <特別賞受賞>



京都府北部の良さをもっと多くの人に知ってもらいたいと企画した「給食列車」。車内に音楽室・理科室・図書室等を設け、学校の教室の雰囲気味わいながら、給食や宮津湾・由良川橋梁の景色を楽しんでもらう旅の提案に、京都丹後鉄道が協力下さることになりました。何度か打合せを経て、中学校とコラボした特別列車が1月7日と28日に、天橋立ー西舞鶴駅間の「丹後

あかまつ号」にて実現しました。50分の短い旅でしたが、3000円の事前予約チケットは完売。京丹後の食材が作った給食も美味しく、乗客の皆さんに楽しんでいただけたものになりました。



『脱いじめ Project』(京都橘中学校 1年生4人+クラスメート)



自分たちにとって身近ないじめの問題に取り組みたいと提案した4人の活動をクラスメートと一緒に協力することになり、授業の中で企画を進めて来ました。自分達もいろいろ勉強しながら、先生や学校の協力も得て、近隣の小学校の5,6年生約150名を招待し、12月16日に、いじめにあった経験のある落語家2名の方を講師に招いて体験談を聞いた後、ゲームしながら交流する会を開催しました。3月18日には保護者の方を招待して、講演会のあと、自分の子供がいじめにあった時の対応などを考える会を行いました。

『福知山ボードゲーム』(京都府立福知山高等学校附属中学校 3年3人)



子供達に、地域の歴史や良いところを楽しみながら学び、地域の将来について考えてもらうきっかけを作りたいと、福知山のボードゲームを提案。試作品を作って、小学校の児童クラブに何度か足を運び、子供たちの意見を参考に試行錯誤を重ね、ゲームの内容を検討

して来ました。最終のデザインは地元の企業に協力頂き、商工会議所の支援も得て、印刷したボードゲームは、福知山の全小学校に寄付しました。



➤ 里山の恵みを届ける手仕事体験@亀岡市西別院町、東別院町

対象者：地元の小・中学生と移住に興味ある方

活動日：6/26(日)：箱メガネを作って川の水中観察

7/3(日)：起業教育の授業体験&御田祭見学

活動場所：東別院ふれあいセンター(6/26)・亀岡市立西別院小学校(7/3)

主催：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

共催：西別院町自治会・東別院町自治会

助成：一般財団法人 YS 市庭コミュニティー財団

後援：亀岡市、亀岡市教育委員会

本事業では、過疎化・高齢化が急速に進む亀岡市別院地域で、自然の恵みを味わう体験活動を通じて地域の良さを知ってもらう機会を作るものです。実施においては、学区を超えて通学できる特任校制度を設けて地域の再生に取り組む自治会や学校関係者と連携し、地域で活躍する起業家や子供達との交流・モノづくり体験を通じて、移住や田舎暮らしに興味のある人達に別院地域の良さや教育内容、田舎での生業づくりについて知ってもらう機会を作りました。

第1回目の体験では、東別院小学校の子供達が地域の魅力スポットや学校の活動等について紹介した後、地元の三浦製材(株)の三浦享浩社長から森に関わるお仕事についてお話を聞き、午後からは箱メガネを作って東別院小学校裏の東掛川で水中観察を行いました。第2回目体験では西別院小学校で実施されている起業家教育の体験授業として、「地域の魅力発信！」と題して地元で活躍する人の紹介動画の作成に挑戦しました。その後、お蕎麦を食べて、小学校の児童2人が参加する松尾神社の御田祭りを見学しました。

今回の体験では特に川での水中観察に参加希望者が多く、子供達がのびのびと楽しく学ぶ姿を見ながら、自然の中で子育てを考えておられる保護者が交流を持たれる良い機会になりました。また、動画作成では、西別院小学校の子供達が地域で活躍する方々に事前に取材し、その魅力を発信することで、別院の良さを再認識することができました。

<6/26(日)箱メガネを作って川の水中観察>



<7/3(日)起業教育の授業体験&御田祭>



2. 普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営

▶ 世界大会 Global Youth Entrepreneurship Challenge 2022

対 象 者: 世界各国の高校生

活 動 日: 2022 年 5 月 28 日 8:00-20:00

主 催: 特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協 賛: 有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所、
公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社、
日東薬品工業ホールディングス株式会社、株式会社堀場製作所

協 力: 京都技術士会

本競技は、若者の科学技術やイノベーションへの興味を喚起するために、15 歳～19 歳の高校生を対象に実施する 12 時間の国際競技です。

2022 年の世界大会には、18 か国から 43 チームの高校生約 270 人が参加し、アメリカ合衆国の North Carolina School of Science and Mathematics の Positron チームが優勝しました。

<課題(challenge)>

社会に広がる情報が事実に基づいたものであるかを検証する革新的な事業アイデアを提案せよ！

■参加チーム: 43 チーム(18 か国)

■入賞チーム

●1 位(最優秀賞): Positron チーム

(North Carolina School of Science and Mathematics、アメリカ合衆国)

●2 位(優秀賞): Katharevous チーム (SMA Taruna Nusantara、インドネシア)

●特 別 賞: Micronsoft チーム(Hwa Chong Institution、シンガポール)

●審査員賞: Nicely チーム(混成チーム、中国)



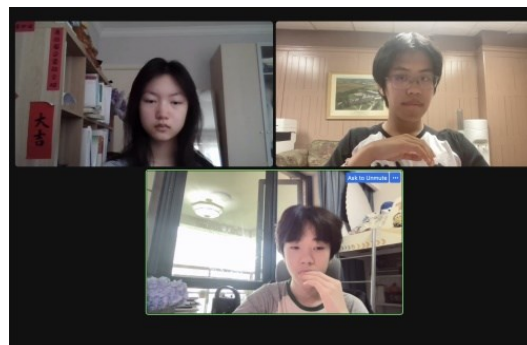
Positron チーム



Katharevous チーム



Micronsoft チーム



Nicely チーム

➤ 国内予選 Global Enterprise Challenge 2023

対 象 者:日本国内の高校生

活 動 日:2023 年 3 月 26 日 8:00-20:00

主 催:特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協 賛:有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所、株式会社ジンジブ、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社、日東薬品工業ホールディングス株式会社、日本ニューロン株式会社、株式会社フューチャースピリッツ、株式会社堀場製作所

協 力:京都技術士会

後 援:経済産業省近畿経済産業局、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合、公益財団法人全国商業高等学校協会、青少年と科学の会、国立研究開発法人科学技術振興機構、独立行政法人国立高等専門学校機構

今年は、全国 75 校から 81 チームがエントリーし約 500 人の高校生が参加しました。そして、3 月 12 日の事前学習会での模擬練習を経て、3 月 26 日の国内予選にてトップ 3 位のチームが選ばれ、5 月 27 日の世界大会に出場予定です。

<課題(challenge)>

最先端のテクノロジーを活用し、高齢者の支援と介護に貢献する革新的な事業アイデアを提案せよ！

■参加チーム:80 チーム

■入賞チーム(日本代表チーム)

- 1位 - Nokia Fighters チーム (立命館宇治高等学校 3年、頌栄女子学院高等学校 2年)
- 2位 - EBITEN SAMURAI チーム(広尾学園高等学校 3年)
- 3位 - Uji's 8 チーム (立命館宇治高等学校 3年)



Nokia Fighters チーム (立命館宇治高等学校・頌栄女子学院高等学校チーム)



EBITEN SAMURAI チーム



Uji's 8 チーム

➤ 第 22 回 ユースエンタプライズ トレードフェア

対 象 者: 起業教育を実践している小学生～大学生 24 チーム

(小学生 1 チーム、小・中学生 1 チーム、高校生 1 チーム、大学生 21 チーム)

活 動 日: 2022 年 11 月 27 日 10:00-17:00

場 所: 京都大学百周年時計台記念館2F 国際交流ホール

主 催: ユースエンタプライズ トレードフェア実行委員会

(事務局: 特定非営利動法人アントレプレナーシップ開発センター)

協 賛: 株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、京都信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社 SCREEN ホールディングス

広告協賛: 株式会社井筒八ッ橋本舗、株式会社つなぐ制作所、株式会社土井志ば漬本舗

賞品協賛: 株式会社井筒八ッ橋本舗、有限会社 EK、オムロンヘルスケア株式会社、京都シネマ、株式会社 SCREEN ホールディングス、よーじやグループ

後 援: 経済産業省、厚生労働省、文部科学省、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、公益財団法人京都産業 21、一般社団法人京都中小企業家同友会、一般社団法人京都発明協会、青少年と科学の会、京都府私立中学高等学校連合会、全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会、公益財団法人日本進路指導協会、公益財団法人全国商業高等学校協会、日本キャリア教育学会、一般社団法人日本教育情報化振興会、日本社会科教育学会、特定非営利活動法人日本シミュレーション&ゲーミング学会

第 22 回目を迎えた『ユースエンタプライズ トレードフェア』は、3 年ぶりに京都大学にて対面で開催いたしました。当日は、全国各地から集まった小学生～大学生で構成される 24 チームが参加し、日頃取り組んでいる起業体験活動の学習成果を展示販売やプレゼンテーションを通じて発表いたしました。その間、一般の来場者の方にも評価投票いただいたり、出展者自身も他校の取り組みを見て良い実践に投票したりと、互いに学び合いました。

また、学校の枠を超えてチームを組み、商品開発に取り組むミニワークショップも行うことができ、参加者にとって良い交流の機会となりました。最終的に、今年の知事賞は、誰でも気軽に楽しめる 3 色のコマで遊ぶボードゲームを開発した名古屋市立大学の HAMON & lien チームが受賞しました。

トレードフェアの出展者は、それぞれに身近に感じる社会課題の解決に取り組んでいて、イベント終了後のアンケートでも、全員が「このような活動が、将来自分の職業を考えるうえで役立つ」、98% が「仕事を通じて社会に貢献する力をつけるのに役立つ」と答えています。また、8 割以上が、他の学校の取り組みからの学びが役立ったと考え、「他人と一緒に協力して働く力」「アイデアを形にする力」「新しい事業を創り出す力」が身についたと回答しています。そして、半数以上が「自分で事業を始めることに興味を持ち、ぜひ自分もいつかチャレンジしてみたいと思う」「将来機会があれば、自分でやっても良いと思う」と答えており、本事業が一定の教育効果をあげていることが伺えています。



<入賞チームの紹介>

●京都府知事賞（社会貢献度が最も高かったチームへ）

賞品：丹後ちりめん「がま口ポーチ」 賞品提供：京都府

●スチューデント賞（発表者が選ぶ一番よかったチーム）

賞品：あぶらとり紙他雑貨セット 賞品提供：よーじやグループ

○受賞者：HAMON & lien（名古屋市立大学）

-[HAMON]小さな子どもからお年寄りまで楽しむことができるボードゲームを開発。創造的な遊びが出来るシンプルなデザインで、論理的思考力、分析力、集中力、コミュニケーション能力を養えるだけでなく、認知症予防にも効果があるなど、その独自性が評価されました。

-[lien]多くの人々が食品廃棄問題に向き合い、環境や暮らしやすい社会のために行動するきっかけになるように、廃棄野菜や果物から生まれた雑貨を販売。高い環境意識が評価されました。



●京都経済同友会賞（地域コミュニティに貢献度の高いチームへ）

賞品：「さかなかるた」や「カタン」などのかるたとボードゲーム

賞品提供：一般社団法人京都経済同友会

●ベストショップ賞（一般来場者が選ぶ一番よかったチーム）

賞品：電動歯ブラシ 賞品提供：オムロンヘルスケア株式会社

○受賞者：ジュニアリーダーズクラブ（ジュニアリーダーズクラブ）

-自分達の身近なことをテーマに取りあげ、同年代の子供達学びながら遊べるカードを開発している点やハロウィンにちなんでゴミ清掃活動を楽しいイベントとして企画・実施したことが評価されました。



●京都中小企業家同友会賞(ビジネスモデルに新規性や独自性の高かったチームへ)

賞品:京友禅のメガネ拭き「おふき mini」

賞品提供:一般社団法人京都中小企業家同友会

○受賞者:Morush(共愛学園前橋国際大学)

-群馬県の使われていない桑の葉を活用し、麺とスープに桑の葉パウダー使用した塩ラーメンを開発。桑の葉の高い栄養素に着目した新規性が高く評価されました。



●青少年と科学の会賞(ものづくりにおいて新しい発想があったチームへ)

賞品:「鉛筆シャープ」の限定セットと DETECOOL(デテクール)スタンドパンケース

賞品提供:青少年と科学の会

○受賞者:ふれ愛(共愛学園前橋国際大学)

-こんにゃくを加工する際に発生する「飛粉」から抽出した「こんにゃくセラミド」でハンドクリームを開発。大量廃棄されるものをアップサイクルし事業モデルが評価されました。



●異能工房賞(実際に起業するなら応援したいチームへ)

賞品:アマゾンギフト券 賞品提供:有限会社 Ek(イク)

○受賞者:和結(共愛学園前橋国際大学)

-需要減少により供給過多となっている群馬の生乳の食品ロス問題を解決すべく、牛乳を使用した保存食を開発しました。生乳や多くの野菜を使用した商品は、災害時の栄養不足や心身の衰えに効果があり、その着眼点と社会的ニーズが評価されました。



●特別賞

賞品:おめでとう三笠 50 個 賞品提供:株式会社井筒八ッ橋本舗

○受賞者:わかめんず(宮城県仙台第三高等学校)

-宮城の特産品のわかめと今注目の米粉を使ったわかめ米粉麺を開発。日本の米の食料自給率の上昇を狙ったことと、地元の食材を使った地域貢献度が評価されました。



●特別賞

賞品:おめでとう三笠 50 個 賞品提供:株式会社井筒八ッ橋本舗

○受賞者:ICHIMAME(同志社女子大学)

-一休納豆を通して京田辺の活性化を目指すために、オリジナルパッケージの一休納豆とオリジナルブックを提供。その活動の発信力と地域貢献度が評価されました。



3. 実践を後押しするための教材・教育プログラム開発や導入支援

➤ Youth Enterprise <http://www.youthenterprise.jp/>

小学生～大学生達が、学年段階を超えて、自分達の起業教育の活動を発信しながら、互いに学びあい、また、彼らの支援者が応援者としてプロジェクトの進捗状況を観覧し応援できるようになっています。

トレードフェアや Kyoto アントレプレナーチャレンジでは、このサイトでの活動発信が表彰のための事前審査の対象となっています。今後もより多くの活動に使ってもらえたらと考えています。



➤ アントレプレナーシップ教育指導者養成講座

小・中学生を対象にアントレプレナーシップを推進する教育指導者の育成の研修講座をオンラインや対面で行いました。

大学だけでなく、小中学校でのアントレプレナーシップ教育への興味が高まって来ているのを感じています。



4. 事業理解を進めるための調査・研究・情報発信

➤ HP、ブログ、Facebook やメールマガジンでの情報発信

HP では、随時活動情報や実践の報告を発信するとともに、毎月 25 日には約 6,000 人にメールマガジンを配信しています。

➤ 商標登録

2022 年 4 月に山形大学に当法人と同名の「アントレプレナーシップ開発センター」が開設されました。加えて大学のHPの文言に当方との類似が見られ、混乱を招くとの危惧から、専門家に相談のうえ、大学に名称・HP 記載内容の変更を依頼するとともに、特許庁に商標登録を申請しました。結果、3 月 10 日付で「アントレプレナーシップ開発センター」の商標登録手続きが完了し、2023 年 4 月から山形大学の名称も変更となりました。今後も、知的財産の保護に留意して参りたいと思います。

<メディア掲載等>

- ・ 2023.3.19:京都新聞 ジュニアタイムズ「地元愛をこめたコロッケ 亀岡の小学 5 年生が府知事賞 小・中学生による起業アイデア発表会」
- ・ 2023.1.30:京都新聞「亀岡コロッケすぐ完売 安詳小児童、直売所で奮闘」
- ・ 2023.1.29:京都新聞「地元食材使い給食列車 発車 丹鉄で福知山高付属中生 企画」
- ・ 2022.12.8:京都新聞「京都大学で学生らのアイデア商品ずらり 地域活性化、環境問題の解決見据え」
- ・ 2022.11.26:京都新聞「観光列車で「学校給食」中学生が府北部食材使い企画 丹鉄 車内に教室再現、来年 1 月 7・28 日 GO」
- ・ 2022.11.25:交通新聞社「列車内で「給食」味わう 京都丹後鉄道が特別な列車」
- ・ 2022.11.25:時事新聞・読売新聞「丹後あかまつ号が学校に！まるで学生時代にタイムスリップしたかのような乗車体験を」
- ・ 2022.10.17:京都新聞「児童考案コロッケ人気 亀の形に綿あめで「霧」表現 市民ら買い求め」
- ・ 2022.8.24:京都新聞「コロッケに亀岡魅力詰め 特産牛など使い特有の「霧」食材で表現」
- ・ 2022.7.16:京都新聞「西別院の魅力動画に 亀岡・地元小の 3 人 牧場や工房を取材」(「里山の恵みを届ける手仕事体験」事業にて実施)
- ・ 2022.7.15:烏丸経済新聞「京都・大垣書店で祇園祭の「ちまき」支えるプロジェクト紹介」(2020～2021 年度の「Kyoto アントレプレナーチャレンジ」の応援事業)
- ・ 2022.7.4:京都新聞「猛暑はねのけ 豊作祈る 早乙女姿の児童田植え」
- ・ 2022.6.29:京都新聞「里山の人、環境 親しむ 箱眼鏡作り 子ら川遊びに歓声」

活動を支えてくださった方々

Supporter

<助成・協賛団体>

 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金助成活動」		
		
		
 京都外国語大学 Kyoto University of Foreign Studies		
 SHIMADZU Excellence in Science	 高校生の就職を支援する ジョブドラフト	
		
		
	 Explore the future	

<その他の協賛・協力団体>

株式会社井筒ハツ橋本舗、有限会社 Ek、オムロンヘルスケア株式会社、京都技術士会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都中小企業家同友会、青少年と科学の会、京都シネマ、株式会社つなぐ制作所、株式会社土井志ば漬本舗、株式会社 Hibana、有限会社森三、よーじやグループ

<会員・賛助会員>

青山和典、石塚実、岩田晋一、宇田川幸夫、大口達夫、黒澤敏朗、酒井朋久、澤田有紀、重松利信、首藤晴美、鈴木三朗、谷孝大、角田隆太郎、中澤弘、中島康滋、松田直子、真庭功、峯陽一、森木隆浩、横山強、黄錦豪、木村哲也、川勝雪貴、黒岩絵里子、後藤英之、下村委津子、田中絵里加、中根敏雄、西田喜久夫、藤原未来、堀田芳子、松田稔樹、道越久悟、森義晴、山崎真嗣